

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01319

研究課題名（和文）中国革命の資料的復元に向けた基礎研究

研究課題名（英文）Reviving the History of the Chinese Revolution by Reviewing the Source Materials

研究代表者

石川 禎浩（ISHIKAWA, Yoshihiro）

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：10222978

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,700,000円

研究成果の概要（和文）：京都大学人文科学研究所で進められている「20世紀中国史の資料的復元」をプラットフォームとして、本プロジェクトで収集、蓄積してきた政党文書、資料集を吟味し、批判的に再構築を進める作業を推進した結果、いくつかの事案（中国共産党、戦後日本の中国近代史研究）に関して、資料編纂上の問題を解明し、よりよい史資料調査に基づく研究成果を生み出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国における近現代史の叙述がイデオロギー型革命政党によって統制され、方向付けられてきたことを明らかにするとともに、歴史資料はしばしばそのイデオロギーに符合するよう編纂されてきたことに光をあてた。それゆえ、既存の公刊史料に基づく限り、どうしてもその枠組みから脱却できないという隘路から脱するために、まず基本的な史料を編纂状態以前にもどすという気の遠くなる作業から始めなければならないことを浮き彫りにしてきたと考えている。そのインパクトは、中国史を超える広がりを持つであろう。

研究成果の概要（英文）：We successfully finished our research program, using the joint research seminar on "the Reviving the History of Twentieth-Century China by Reviewing the Source Materials" held fortnightly in Jinbunken, Kyoto University. After collecting huge amount of the historical documents of the Party organizations, such as the Chinese Communist Party and the Guomindang (the Nationalist Party), we have examined and authenticated those materials, and have clarified what kind of editorial processing or falsification were made when they were edited and contained in the collections. This type of research would open the way for us to have a refreshing understanding of how the Chinese revolution really was.

研究分野：中国共産党史

キーワード：中国共産党史 中国近代史 資料学

## 1. 研究開始当初の背景

本研究開始時の核心的問いは、「どのようにすれば、政治から歴史を取りもどせるのか」であった。20世紀中国の歩みは、革命の連続と言い換えることができるが、その革命運動を担った二つの政党(中国国民党、中国共産党)は、いずれも自己完結型のイデオロギーによって正当性を主張し、かつ歴史の中での自党の役割を肯定的に、かつ独善的に叙述する性向を持っていた。また、その二つの革命政党は、自党の成長、成功を歴史の必然であるとするドグマ的歴史観に支えられてきたがゆえに、歴史編纂と歴史資料をことさらに重視するという政党文化を持っている。両党がともに党中央のもとに直轄の党史部門、資料・文書管理部門を持ち、直接に歴史資料の編纂につとめてきたのは、当然と言えよう。

だが、問題は自党の歩みを歴史の中心に位置づける姿勢に災いされて、発掘、収集した資料に対して、意図的な方向付けや改変、果ては改竄がしばしば行われてきたということである。その一例は毛沢東の著作集に明らかである。すなわち、『毛沢東選集』の編纂にあたって、毛沢東は収録されるすべての文章に目を通し、多くの修訂を加えているのだが、なかには、中には毛自身の認識が変わったため、それに合わせて内容を後の認識に合うようにしたものもある。他方で現在の中国では、毛沢東ら過去の人物をふくめ、党の最高指導者の文章を許可無く集めて編集し、刊行することは禁じられている。つまり、ある研究者が仮に毛の未発表の文章を見つけたとしても、それを公表したりすることはできないのである。また、党の歴史文書などの公開は、規定上は可能だが、現実には歴史文書の公開は、特に近年はまったく進展していない。

その結果として生じたのは、公刊されている歴史資料や著作集に依拠する限り、支配政党の公式党史の枠組みから歴史は抜け出すことができないという異常な事態である。かたや中国近現代の政治、革命にかんして、質・量ともに圧倒的な資料を持ち、それでいながら、公開資料と内部資料を峻別して学術研究への利用を制限する現在の中国の支配体制のもと、歴史を叙述することはどのようにして可能になるだろう。中国の歴史認識への不満の声は大きい。歴代政権が自党の歴史をどう認識し、どのように資料を集め、集めた資料をどのように編纂したのかといった革命の歴史の形成過程についての学術的検討は、結局は「ブラックボックス」の中のことだとして、ほぼ放置されてきたのである。その「ブラックボックス」の中身を明らかにして、歴史資料の再生を果たすにはどうすればよいのか、それが本研究の出発点としての問いであった。

## 2. 研究の目的

この研究テーマの最大の目的は、中国国民党なり共産党なりに代わって、党史を含む革命活動の歴史資料を再集成し、それら政党による革命運動が如何なるものだったかを真の原史料によって復元することである。むろん、近代150年の革命史の全てに対して、独自の資料を提示するということは現実的ではない。だが、分野や時期を区切った上で、資料の再調査、再収集、あるいは既存公刊史料のテキスト校訂などを行い、それによって既存の歴史叙述の欠陥をあきらかにすることは可能である。さらには、特定の時期・テーマに関しては、さらに進んで資料の復元と革命運動の実情の把握が可能だと考えられる。

当の中国国民党に代わって彼らの革命運動の実際を分析し、また中国共産党に代わってかれらの革命運動(大衆運動)の現場を資料的に復元する、これが独自性でなくて、いったい何だろう。10年にわたる社会的大動乱であり、中国共産党にとって統治の正当性を問われるほどの大事件でありながら、意識的に抹殺されつつある「文化大革命」にかんし、確実に信頼のおける資料群を使いやすい形態で集成し、中国に関心をいざしく世界の全ての人々が閲覧できるような形態で提供すること、本研究の学術的独自性と創造性は、これら不可能と思われる過去の復元に、具体的にその一步を踏み出すことにある。スポーツを例にして例えるならば、強敵中国の卓球代表にたいして、こちらは少数精鋭のメンバーを集め、世界の学術コミュニティの支援を受けつつ対戦し、かれらの卓球が卓球のすべてではないということアピールすること、これが我々の研究グループの最大の目標である。練習量・技術・選手層のどれをとっても圧倒的で、他国のあらゆるゲームプランも結局ははね返されてしまう中国の「十八番」の分野において、かれら中国の党史専門家、専門機関を驚愕させる歴史像をそれを証明する資料とともに提示する、これが実現すれば、国外の資料や情報に対して関心をあまり持たず、指導者の顕彰と自党への讃歌に片寄りが多い中国共産党の歴史編纂活動にたいし、ひいては世界の中国革命史研究者・研究コミュニティにたいして、本研究は大きな衝撃を与えるであろう。

## 3. 研究の方法

本研究プロジェクトのような歴史事象、テキスト復元を共同で進めようという指向性を持つ

タイプの研究の場合、強い参与意識をもったメンバーを研究協力者に据え、組織的、かつ国際的に研究を進めることが求められる。その上で具体的には、まず中国国外の毛沢東著作の収集や洗い直しをすることが必須となるだろう。本研究では、そうした基礎作業を行ったのち、さらに研究分担者以外の専門研究コミュニティ(例えば、台湾中央研究院近代史研究所の研究グループによるプロジェクト「国共両党の比較研究」、あるいはブリティッシュ・コロンビア大学・ベルリン自由大学連携の中国革命史再検討国際ネットワーク)とも連携しつつ、資料の洗い直しをすすめる。

そうした洗い直しの結果生じる問題(テキスト校訂によって判明する資料改竄など数々の不具合の痕跡)を話し合うために、京大人文研において、本研究グループの正式の研究協力者以外の若手研究者も参加可能な共同研究会「20世紀中国史の資料的復元」を2019年4月に発足させ、隔週で定期開催し、中国革命にかんする従来の歴史叙述の来歴や変化の経緯を解明する。当初はできれば、2-3年目から発見、校訂、整理の済んだ革命史資料を順次公開し、独自の「中国革命史資料集」を発行・頒布して、その広報につとめる予定であった。

#### 4. 研究成果

研究分担者にも本研究プロジェクトへの強い帰属意識を持ってもらうため、研究例会はあえて平日昼間の開催とし、隔週1回、3時間の開催という独自ルールを定め、濃密でインテンシブな研究環境を構築するよう努めた。その結果、本研究事業の期間(4年)に、合計63回の例会を開催し、濃密で実際的な報告と討議とを繰り返すことができた。

研究初年度はおおむね予定通りに活動が展開したが、それを一変させたのが2020年に入って世界的に深刻化した新型コロナウイルスの蔓延であった。二年度以降の国外での資料調査という本研究プロジェクトの眼目にあたる活動がそのおりをまともに食らってほぼ全面的に中止となった。この間、オンラインデータベースを駆使しながらも、関連情報、とりわけ重要な政治文書の収集は、全く期待外れに終わったと言わざるを得ない。

代わって2020年度以降は、それまでに集めた基本的な資料とその整理に重点を移し、それぞれの研究構成員の研究成果を持ち寄り、定期例会を金曜に固定しつつもオンライン配信も並行するという形で濃密な研究を継続した。こうした中、従来蓄えてきた政党文書、資料集を吟味し、批判的に再構築を進める作業を上記の共同研究班の実施に合わせて推進した結果、研究代表者の石川や分担者の小野寺がそれぞれ単著の形で、中国共産党、あるいは戦後日本の中国近代史研究の歩みに関し、研究成果の一部を刊行することができた(詳しくは後掲のリスト参照)。

また、コロナ感染が何度かやや下火になったのに合わせ、市民向けの講演会(2022年秋)なども積極的に行い、おりからの中国共産党結党100周年、日中国交正常化50年などの節目の年に啓蒙書や啓蒙記念講演会などを催すことができた。さらにこの面で強調すべきは、上記の研究成果にしてもそうだが、それら研究成果の出版が単なる成果の出しっぱなしにならぬよう、刊行後に関連する分野の専門家を交えて合同書評会を実施して、成果物に対する自他の評価を積極的に実施したことである。これは地味ではあるが、研究の継承性と意識のすり合わせにおいて、大きな意義を持つ催し物だったと言ってよさそう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 石川禎浩	4. 巻 949
2. 論文標題 記念と展示に見る中国共産党第一回代表大会	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 學士會會報	6. 最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 村上衛	4. 巻 96
2. 論文標題 「土大夫」から華人へ 清代後期同安県の寺廟に対する寄付事例より	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東方学報	6. 最初と最後の頁 294-344
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小野寺史郎	4. 巻 174
2. 論文標題 王清穆『農隱廬日記』に見る1920年代の江南士紳	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駿台史学	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森川裕貴	4. 巻 49
2. 論文標題 中華人民共和国における胡適の著述の編纂と附随する問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西学院史学	6. 最初と最後の頁 77-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都留俊太郎	4. 巻 855
2. 論文標題 現代台湾の地方志編纂とジェンダー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 52-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野寺史郎	4. 巻 明石書店
2. 論文標題 五・四運動から見た「二・八」と「三・一」 中国史研究の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 在日韓人歴史資料館編、李成市監修『東アジアのなかの二・八独立宣言 若者たちの出会いと夢』	6. 最初と最後の頁 131-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都留俊太郎	4. 巻 岩波書店
2. 論文標題 台湾語 王育徳における大衆と「チャンボン語」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 駒込武編『生活綴方で編む「戦後史」 冷戦 と 越境 の一九五〇年代』	6. 最初と最後の頁 301-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川裕貴	4. 巻 74-10
2. 論文標題 「五四新文化運動」再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihiro Ishikawa, Craig Smith	4. 巻 Verso Press, ANU Press
2. 論文標題 Line Struggle	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Afterlives of Chinese Communism	6. 最初と最後の頁 114-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 石川禎浩	4. 巻 94
2. 論文標題 梁啓超と社会主義 1903年訪米時の社会主義者との問答より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東方学報 (京都)	6. 最初と最後の頁 241-260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野寺史郎	4. 巻 985
2. 論文標題 戦後日本の中国近現代史研究におけるナショナリズム論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 36-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野寺史郎	4. 巻 73-11
2. 論文標題 清末民初のミリタリズム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上衛	4. 巻 94
2. 論文標題 洋銀と紋銀 開港直後の廈門における海関銀号問題を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東方学報(京都)	6. 最初と最後の頁 399-422
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川裕貴	4. 巻 78-3
2. 論文標題 蒋介石『中国之命運』の国際的反響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 124-158
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件(うち招待講演 8件/うち国際学会 8件)

1. 発表者名 ISHIKAWA Yoshihiro
2. 発表標題 "Living as a Cog in the Machine: A Way of Life in the 1940s."
3. 学会等名 Digital Conference "Living the Socialist Modern" The Chinese Communist Party at 100: Global and Interdisciplinary Perspectives (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川禎浩
2. 発表標題 "四大文明" 説的形成與伝播 跨世紀的対話
3. 学会等名 国際研究会「百年中国與世界：跨学科的対話」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川禎浩
2. 発表標題 建党百年の回首：重思《中国共産党成立史》
3. 学会等名 胡華大講堂（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上衛
2. 発表標題 中国近代經濟制度史：以海洋史和内地商品の流通為中心
3. 学会等名 武漢大学歴史学院オンライン講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 都留俊太郎
2. 発表標題 李應章の摩托車：二林街の經濟發展和蔗農事件
3. 学会等名 「世界・啓蒙・在地：臺灣文化協會一百週年紀念」學術シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川禎浩
2. 発表標題 會議與歷史 中共西北局高幹會議（1942年）淺議
3. 学会等名 国際ワークショップ「国共兩党的比較研究2020 年度會議」（国際学会）
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 森川裕貴
2. 発表標題 毛沢東与胡適
3. 学会等名 日本の中国論：日中關係史与中国近現代史研究（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石川禎浩
2. 発表標題 論“四大文明”説的来源
3. 学会等名 近現代中国の多層結構分析（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森川裕貴
2. 発表標題 「五四新文化運動」再考
3. 学会等名 五四運動百年記念シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 石川 禎浩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 中国共産党、その百年	

1. 著者名 石川禎浩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 香港中文大学出版社	5. 総ページ数 517
3. 書名 中国共産党成立史 増訂版	

1. 著者名 ISHIKAWA Yoshihiro	4. 発行年 2022年
2. 出版社 The Chinese University of Hong Kong Press	5. 総ページ数 333
3. 書名 How the "Red Star" Rose: Edgar Snow and Early Images of Mao Zedong	

1. 著者名 石川禎浩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北京大学出版社	5. 総ページ数 286
3. 書名 “紅星” 世界是如何知道毛沢東的？	

1. 著者名 小野寺 史郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 272
3. 書名 戦後日本の中国観	

1. 著者名 岡本隆司、高嶋航、石川禎浩共編訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 548
3. 書名 梁啓超文集	

1. 著者名 飯島渉編（石川部分執筆p.97-117）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 210
3. 書名 大国化する中国の歴史と向かい合う	

1. 著者名 田雁著、小野寺史郎、古谷創訳、中村元哉解説	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 464
3. 書名 近代中国の日本書翻訳出版史	

1. 著者名 村上衛編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学人文科学研究所	5. 総ページ数 430
3. 書名 転換期中国における社会経済制度	

1. 著者名 河崎信樹・村上衛・山本千映	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 412
3. 書名 グローバル経済の歴史	

1. 著者名 石川禎浩編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学人文科学研究所	5. 総ページ数 442
3. 書名 毛沢東に関する人文学的研究	

1. 著者名 小野寺史郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 サンジニ出版	5. 総ページ数 312
3. 書名 中国ナショナリズム 民族と愛国の近現代史（韓国語）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>共同研究班「20世紀中国史の資料的復元」</p> <p><a href="http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~rcmcc/group1.htm">http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~rcmcc/group1.htm</a></p> <p><a href="http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~rcmcc/group2.htm">http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~rcmcc/group2.htm</a></p>
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	都留 俊太郎 (TSURU Shuntaro) (00871401)	京都大学・人文科学研究所・助教  (14301)	
研究分担者	小野寺 史郎 (ONODERA Shiro) (40511689)	京都大学・人間・環境学研究科・准教授  (14301)	
研究分担者	村上 衛 (MURAKAMI Ei) (50346053)	京都大学・人文科学研究所・准教授  (14301)	
研究分担者	森川 裕貴 (MORIKAWA Hiroki) (50727120)	関西学院大学・文学部・准教授  (34504)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関